



H.Suga

THE FUKUSHIMA KINEN

第60回 農林水産省賞典 福島記念 (GIII)

1着 本賞 43,000,000円
付加賞 574,000円
2着 17,000,000円
164,000円
3着 11,000,000円
82,000円
4着 6,500,000円
5着 4,300,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、2023.11.11以降2024.11.3まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

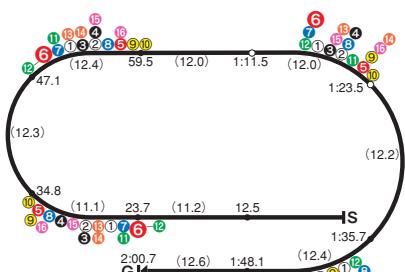
2024.11.10 福島 駒 晴・良 芝2000m (国際) 特指

順位	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
					(着差)	通過順位	(600m)	(増減)				
1	⑥ アラタ	牡 7	57.5	大野拓弥	2:00.7	15-15-14-10	36.3	474(+4)	12.6(7)	和田勇介(美浦)	110	
2	① フェアエールング	牝 4	52	丹内祐次	1	12-11-13-10	36.8	444(-10)	11.2(6)	和田正一郎(美浦)	97	
3	⑪ ダンディズム	駆 8	57	三浦皇成	1/2	13-13-6-3	37.2	476(+8)	7.0(3)	野中賢二(栗東)	106	
4	⑤ クリノフレミアム	牝 7	55.5	松岡正海	アタマ	2-3-2-2	37.3	484(±0)	28.9(0)	伊藤伸一(美浦)	103	
5	⑬ ショウナンマグマ	牡 5	57	柴田善臣	クビ	10-11-10-5	37.0	508(-10)	49.9(2)	尾関知人(美浦)		
6	② エンハイアウエスト	牡 5	53	津村明秀	1/2	8-6-7-5	37.2	510(+10)	12.8(8)	黒岩陽一(美浦)		
7	③ ドクタードリトル	牡 4	56	幸 英明	%	8-9-10-10	37.3	460(-2)	3.7(1)	今野貞一(栗東)		
8	⑫ アスクワイルドモア	牡 5	54	小崎綾也	アタマ	16-16-14-14	36.8	476(+2)	163.2(0)	藤原英昭(栗東)		
9	⑦ タガノリッシュジョン	牝 6	52	吉田隼人	2/1	13-13-14-14	37.3	480(+4)	59.1(3)	武幸四郎(栗東)		
10	④ フライライクバード	駆 7	57	西村淳也	%	6-6-7-8	37.9	456(±0)	5.0(2)	福永祐一(栗東)		
11	⑮ シーズンリッチ	牡 4	56	鶴田温心	2/2	7-6-10-10	38.2	506(±0)	92.6(5)	久保田貴士(美浦)		
12	⑭ サトノエルドール	牡 8	56	H.ドイル	1/2	10-9-2-3	38.8	472(±0)	41.9(1)	国枝 栄(美浦)		
13	⑩ ウインショクラン	駆 6	55	丸山元気	1/2	1-1-1-1	39.2	456(-6)	18.6(8)	鹿戸雄一(美浦)		
14	⑯ シリウスコルト	牡 3	54	高杉吏麿	%	4-3-2-5	39.2	478(±0)	9.4(5)	宗像義忠(美浦)		
15	⑨ ギャラクシーナイト	牡 5	56	菊沢一樹	6	2-2-2-8	40.3	504(-4)	8.6(4)	菊沢隆徳(美浦)		
16	⑧ ベラジオソノダラブ	牡 4	53	国分優作	1/2	4-5-7-14	40.1	476(-2)	73.1(1)	小椋研介(栗東)		

単勝①,260円(7%) 複勝①,350円(6%) ①,400円(8%) ①,270円(3%) 枠連①,3,260円(12%)

馬連①,6,7,320円(33%) ワイド①,6,1,940円(27%) ⑥,⑪,1,090円(11%) ①,⑪,1,700円(22%)

馬単①,6,14,020円(61%) 3連複①,6,①,19,070円(69%) 3連串①,6,①,125,060円(457%)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
34.8 47.1 59.5 1:11.5 1:23.5
(12.3) (12.4) (12.0) (12.0) (12.2)

2:00.7 1:35.7
(12.6) 1:48.1 (12.4)
GK (11.1) 23.7 (11.2) 12.5
IS (12.6) 1:48.1 (12.4)

通过タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
34.8 - 47.1 - 59.5 - 1:11.5 - 1:23.5
(12.3) - (12.4) - (12.0) - (12.0) - (12.2)

アラカルト

- ・ 大野拓弥騎手は福島記念初勝利。JRA重賞は24年初勝利、通算12勝目
- ・ 和田勇介調教師は福島記念初勝利。JRA重賞はメイショウウマクモで制した21年レペードSに続く通算2勝目
- ・ キングカメハメハ産駒はJRA重賞通算143勝目
- ・ 7歳馬の勝利は01年ミヤギドリ以来23年ぶり、通算4回目
- ・ 非当選馬 2頭(プラチナトレジャー、ホウオウノーサイド)

アラタ Arata

牡 鹿毛 2017.3.16生

北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・村田能光氏 美浦・和田勇介厩舎
馬名意味・新しい今までにない様

パルドヴィナFR系 F1-n	
キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo 鹿毛 1990
	Mr.Prospector
サンシャイン 黒鹿毛 2009	Miesque
	Last Tycoon
	Pilot Bird
	ハーツクライ 鹿毛 2001
	サンデーサイレンスUSA
	アイリッシュダンス
	パルドヴィナFR 鹿毛 1998
	Pistolet Bleu
	Balioka

5代までのインブリード: Northern Dancer S 5×S 5

INTERVIEW

吉田浩敏氏(社台ファーム事務局)

豪快な差し脚に痺れました

活躍した母サンシャインにこの父で、曇りのない血統構成という触れ込みで千葉サラブレッドセールで売り出しました。充実期を迎えたようで仕上がりは絶好と、和田勇介調教師からも聞いていましたが、豪快な差し脚に痺れました。村田能光オーナーには常日頃から牧場スタッフ一同お世話になっており、牧場全体が明るくなるような感動的な勝利でした。



キングカメハメハ産駒の本馬は4歳時に頭角を現し、1勝クラス戦からオーブン特別まで4連勝、続く福島記念も3着。6歳時の金鯱賞でも3着に食い込むなど上位入着を重ねる半面、重賞の舞台では“あとひと押し”が足りない弱みも目についていたが、7月の七夕賞で7着に敗れた後、じっくりと態勢を立て直されて臨んだこの日はトップハンデの評価に違わぬ地力を發揮。三度目の参戦となつた福島記念で

父キングカメハメハ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 詳細はP.6参照

母サンシャイン

北海道千歳市 社台ファーム生産 中央20戦3勝(エルフィンS①、マレーシアC、愛知杯G③2着)

ジェレメジエバイト(16 牡父ワーカフォースGB)中央7戦0勝、地方41戦1勝

アラタ 本馬(17 牡父キングカメハメハ)中央26戦7勝(福島記念G③、巴賞①、ケフェウスS①、S TV杯、駒ヶ岳特別、金鯱賞G②3着、福島記念G③3着2回)獲得総賞金207,293,000円

グッドラベリング(18 牡父エビフィネイア)中央11戦1勝

シャイニングサン(19 牡父キタサンブラック)中央3戦0勝

サングラデーション(20 牡父ドゥラメンテ)中央7戦0勝、地方7戦3勝(スプレッドシャイン(21 牡父ブリックスアンドモルタルUSA)中央5戦0勝

ファイアリー・ホット(22 牡父ミッキー・アイル)中央2戦0勝(23 牡父ボエティックフレアIRE)

(24 不受胎)

祖母パルドヴィナFR

仏、北米3勝(ペネローペ賞・仏G③)、06年輸入、19年用途変更

パルドヴィナ Baldovina(04 牡父Tale of the Cat)英、伊0勝、シーリン

グキティ Ceiling Kitty(クーンメアリーS・英G②)の母、シャンパンカ

ラー(05 NHKマイルC④、ニュージーランドトロフィーG③3着)、アーチャーキット Arthur Kitt(チェシャムS・英L、ソラリオS・英G③2着)、アーサーキット Eartha Kitt(ポーディシアS・英L、サマーS・英G③3着)の

祖母、ノーブルスタイル Noble Style(ジムクラックS・英G②)の曾祖母

ワンカラット(06 牡父Falbrav)持込 中央5勝(フィリーズレビューJ②II、オーフィランS④、キーンランドC④、函館スプリントS④、阪急杯G③2着、ファンタジーS J④III 2着、京阪杯G③3着)、ワントゥワン(富士S④2着、京成杯オータムH④2着、関屋記念G③2着)の母、ワンダイレクト(若駒S・L2着、弥生賞ディープインパクト記念G③3着)の祖母

サンシャイン(09 前出)

ジュエラー(13 牡父ヴィクトワールピサ)中央2勝(桜花賞G①、チューリップ賞G②2着、シンザン記念G②2着)、ヴェールランス(八ヶ岳特別)の母

曾祖母パリオカ Balioka

フランス産 仏2勝、障害8勝、ベ Baie(フィランデ賞・仏L、ブシケ賞・仏G③2着、クレオパトル賞・仏G③2着)の母

二度目の正直、を実らせ重賞初制覇

秋の福島開催を代表するG③のハンデ重賞・福島記念で主役の脚光を浴びたのは、2走前に3勝クラスを卒業したばかりのドクタードリトル。昇級初戦の京都大賞典で0秒3差の6着と、タイトルに手が届く下地は示した4歳馬が頭ひとつ抜けた支持を集め、前走のケフェウスSでオープン初勝利を飾った7歳馬フライライクバー、前年の2着馬ダンディーズムがこれに続いた。とはいっても混戦ムードに断下したのは惑星候補の1頭と目されていたアラタ。トップハンデを課された7歳馬が三度目の正直”を実らせて重賞初制覇を果たした。

7月に同舞台の3勝クラス特別を逃げ切ったウインシュクランが先導したレースは、平均ベースで進行。フライドクタードリトルは先行勢を見る形で6番手、ドクタードリトルは中団馬群の後方に寄りを進む。その後につけたダンディーズムは向正面で仕掛けたサトノワルドールを追つて進出を開始。馬群の外々をまくり上げ、前に迫つていった。一方、序盤はゆつくりと運び、1コーナーを後方2番手で回ったアラタの大野拓弥騎手は、3コーナー手前からスパート。先に動いた面々を射程に収めて直線に向く。その直線は好位追走から抜け出しをはかつたクリノブレミアムにダンディーズムが襲い掛かる形勢となつたが、大外へ持ち出されたアラタは息の長い末脚を発揮して2頭を一蹴。馬群を捌いて内から追い込んだフェアエールングの反撃も寄せ付けて勝利を飾った。

キングカメハメハ産駒の本馬は4歳時に頭角を現し、1勝クラス戦からオーブン特別まで4連勝、続く福島記念も3着。6歳時の金鯱賞でも3着に食い込むなど上位入着を重ねる半面、重賞の舞台では“あとひと押し”が足りない弱みも目についていたが、7月の七夕賞で7着に敗れた後、じっくりと態勢を立て直されて臨んだこの日はトップハンデの評価に違わぬ地力を發揮。三度目の参戦となつた福島記念で